

チーム 27 回生

27 回生 学年通信 第24号

令和4年 3月 1日 発行

27 回生のみなさん、ご卒業おめでとうございます！
皆さんの門出と一緒に迎えることができ、大変うれしく思います。今回は「卒業式」と言うことで、1、2年生の時に 27 回生の皆さんがお世話になった先生方からメッセージを頂きました。



旧 1 年 1 組担任

小野 成伸

ご卒業おめでとうございます。明日から皆さんは互いに違う道を歩むことと思います。振り返れば卒業後の進路を決めるのは難しく、自分のことで精一杯だった記憶も蘇るでしょう。

しかし今後は自分に夢中になることはやめよう。それより世の中には様々な生き方があり、あなた達が選んだ道の数以上に世界は広いことに気付こう。

明日からあなた達は、自分の専門性や得意なことで社会を支えます。見知らぬ人間も含めて互いにどこかで、何らかの形で協力し生きてゆきます。これに気付くことが「自分も他人も尊重する」ということです。懐かしい友達や自分自身の新たな世界を発見し、感動し、ともに尊敬しあえる幸せな人生を拓いてゆかれることを祈ります。



旧 1 年 4 組担任

大澤 菜美子

お久しぶりです。皆さんお元気ですか。何人かの人は選択授業の「赤ちゃん先生」の回で画面越しに再会できました。2年ぶりに見る姿は1年生のときのあどけなさではなく少し大人びた雰囲気がうかがえ、しっかりした言動をし、3年間の学びの大きさを感じました。きっと皆さん一人一人がそうだろうと思います。

あのときおなかにいた子どもはこの4月で2歳になります。まだまだ上手に話せませんが、たどたどしい単語や身振り手振りで自己主張します（ズボンはくのいや！）。こんなに小さいのにちゃんと自分の意思があるんだなと感心します。

卒業に寄せて、少し親目線で書いてみます。生まれたばかりのとき、子どもは一人では何もできませんでした。彼が（我が子は男の子、晴希といいます）できるのは、泣くこと。おなかがすいた、眠たいけど寝られない、抱っこしてほしい。色んな欲求を泣いて大人に伝えます。生きるために泣くのです。誰かに助けてもらわないと生きていけないことを、生まれながらに知っているのです。命ってすごい。初めての子育てで、何で泣いているのか分からず戸惑い疲弊してしまうこともあります。そうやって必死に母である私を求めてくれる姿はとても愛しく、ただただそこにいてだけで尊い存在です。

私は高校生の皆さんしか知りませんが、皆さんもそうやって小さいときがあったんですね。私はまだまだまだ親として駆け出しですが、保護者の方はそれを18年、様々なご苦勞もあったことと頭が下がります。そして、ここまで大きくなってくれたから皆さんと出会え、同じ時間を過ごせました。ありがとうございます。

旅立ちに際し、どうか自分を大事にしてください。優れた能力があるから特別なのではなく、皆さん一人一人がかけがえのない存在です。周囲と同じようにできなくても大丈夫。思い通りにいかない自分も許してあげて。自分は何が好きか、どう思うのか、どうしたいのか。そうした自分の気持ちを大切にしてください。もし困ったことがあっても、強みとなってきっと皆さんを助けてくれます。

最後に、会いたい人には会えるときに会っておこう。大人になると仕事や結婚、子育てで、学生時代の友達とはなかなか気軽に会えなくなります。家族だってそう。何となく頭に浮かんだら、短時間でもメールでも、連絡してみるといいですよ。

卒業おめでとうございます。皆さんの活躍をこれからも応援しています。



旧 1 年 5 組担任

林 友哉

「チーム 27 回生」卒業生へ

27 回生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。いよいよ三田西陵から巣立つときがきたのですね。みなさんの進路が着々と決まってい



こともあったでしょうが、とてもよく頑張りましたね。これから先、もっとたくさんのことに出くわします。笑顔を大切にしてください。笑顔になると、体内で幸せホルモンが分泌されます。そうすると、ストレス解消や明るい気分になる効果があります。気持ちに余裕がないとき、たとえ作り笑いであっても、幸せホルモンの効果があるそうです。「にこっ」として乗り切ってください。27回生のみなさんのますますの活躍を楽しみにしています。



1年学年副主任

植田 聡

時間が足りないと感じられる毎日であっても、あるいは人生の残り時間がもうあまりなくとも、与えられた時間の中に自分のすべてを注ぎ込むことができれば、その時間の中に人は生きている喜びを十分に味わえます。人生の充実感とは時間の長さではなく、深さあるいはその密度から得られるものです。しかも自分のことだけを思い、自分のためだけに行動した時よりも、自分が他から必要とされていることの中に、素直にわが身を用いた時の方が、喜びははるかに大きい。自分の時間を人のために用いれば、自分にもまた思いがけず豊かな喜びが与えられ、人を信じることができれば、それが自分を信じる力となっていきます。

27回生のみなさん、日々生かされていることに感謝して、感動のある人生を送ってください。

人生において「成功」は約束されていない。しかし、人生において「成長」は約束されている。



2年学年係

本田 志織

27回生のみなさん、ご卒業おめでとうございます！卒業の知らせを聞いてとても嬉しく思っています。

卒業までの道は険しかったことでしょう。特にこの一年は、苦しみながら一步步進んでいたのではないのでしょうか。部活のこと、家族のこと、進路のこと、勉強のこと、友人のこと。いろんなことに悩んでいたみんなの姿を思い出すと、卒業の喜びもひとしおです。

これからみんなが歩いていく道は、平坦な道ばかりではないでしょう。つらい時、迷う時もあるでしょう。そんな時は今まで歩んできた道を振り返ってみてください。今までの道に、ヒントや励ましが隠されています。

新しい門出をする者には新しい道が開ける。

(相田みつを)

さあ、新しい道へ踏み出そう！

ご卒業、本当におめでとうございます！！



ここからは、現在も皆さんがお世話になっている先生方からのメッセージです。



3年1組担任

庄野 徹

みなさんは、3年前、僕の声を初めて聴いた日を覚えていますか。そのとき、みなさんはどう思いましたか。声の出し過ぎちゃうかとか、酒焼けなんかと思われたかもしれませんね。少し僕の話させてください。

小学校5年生のとき、僕は友達と運動場のシーソーで遊んでいました。シーソーの反動を使って、誰が一番高く飛べるか競争しよう、となりました。僕はシーソーの端に立ち、友達2人が逆側の端に飛び乗りました。僕は大きく飛び上がり、空高く羽ばたいたのですが、落ちるときのこと考えていませんでした。シーソーの持ち手の部分に頭から落下し、首を強打し、血を吐いて救急車で運ばれました。シーソーの持ち手が、脊椎と首の骨の間に入ったようでした。下半身不随にならなかったのは奇跡的だと言われたことを覚えています。

小学校の卒業式にみんなで読む、「楽しかった～運動会」みたいなやつありますよね。僕は「みんなで行った～」の担当でした。練習の途中で、担任の先生が撮った動画を、みんなで見る機会がありました。僕はそこで初めて、自分の声が妖怪のようにかすれていることを知ったのです。

その日から僕は自分の声が嫌いでした。あの事故で声帯が傷ついていなければ、僕はもっと美声でした。きっと、福山雅治にも負けない美声だったことでしょう。そう思うと辛くなり、眠れない夜が続きました。

時は流れ、僕は高校生になりました。自分の声はもちろん嫌いで、最大のコンプレックスでした。しかし、当時お付き合いすることになった彼女に「その声も好きだよ」と言われ、ずっと心が軽くなりました。向こうがどれだけの気持ちで、その言葉を伝えてくれたのかは分かりませんが、僕は本当にその言葉に救われました。

社会人になった今、僕の声は個性だと思っています。

高校生のときに言われたその一言が、自分の気持ちを大きく変えてくれました。僕は自分の声を、ちょっとだけ好きになることができました。

人はみな、自分の嫌いなところがあります。しかし、それはいずれ個性に変わります。変えることができます。変えるきっかけが必ず来ます。その光が今はまだ見えなくても、大丈夫です。人生はまだまだ長い。僕はやっと 30 歳になりました。これからの人生がとても楽しみです。

27 回生のみなさん、卒業おめでとう。みなさんが今後どのような人生を送り、どのような素敵に人に成長していくのか楽しみです。いつでも話を聞かせてくださいね。



3 年 2 組担任

西野 一紀

新聞のテレビ欄でよく見かける縦読みメッセージを皆さんは知っていますか。いつもと同じように横読みすれば、番組の内容が書かれているものの、左端の字を縦につなげるとお祝いや激励等のメッセージとして読むことができるというものです。このように、日本語には縦読みも横読みもできるという特徴があります。

日本語と同じように、一つの見方だけでなく、時には別の視点から 4 月からの新生活で触れる物事を考えてみてください。きっと気付いていなかったメッセージが目の前に現れるでしょう。今、常識とされる考え方も、新しく得る知識・技能も、出会う人々も、断片的な情報だけで決め付けないでおきましょう。よく学び、よく考え、そして自分自身を大切に。卒業おめでとう。



3 年 3 組担任

高島 百合子

27 回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。27 回生に 2 年から加わった私ですが、コロナウイルスの影響で皆さんとの「初めまして」がマスク越しだったのを覚えています。顔が見えず名前と一致するのに時間がかかってしまいました。行事ごとでできないことが多かった 2 年間でしたが、印象的に残ったことを書きたいと思います。

私が印象的だったことは、西陵祭文化の部でのクラス劇です。感染対策を取りながらクラス劇をすると決まった後、本当に時間が無く、間に合うのかと不安に思いました。しかし、どのクラスも劇を仕上げるだけ

ではなく、立体感のある繊細な風景を描き、工夫が凝らされた小道具を作製し、クオリティの高い動画を見た時、このようなハイレベルな作品を完成させることができるのかと驚きました。色々な場面で能力を発揮する姿を見て、私が見ていた皆さんの力がほんの一部分だったのだと反省しました。1 つのことを完成させた皆さんの能力は、皆さん自身が思う以上に高いです。色々なことに挑戦して、1 度しかない人生を豊かなものにして欲しいです。皆さんに次会うときはマスク無しの世の中になって欲しいですね。色々なことに挑戦してほしいと言いましたが、体調には気をつけてください。お元気で。



3 年 4 組担任

沖守 紀人

20 世紀中葉にフランスの作家カミュが「ペスト」という現在のコロナ禍の状況によく似た題材の小説を発表しました。その小説では、人間には対処しようもない疫病という不条理な世界でも生きていかなければならない人間の葛藤や苦悶が描かれています。27 回生の皆さんは新型コロナウィルスという未知なる人類の敵に翻弄された高校生活だったことでしょう。カミュが読者に伝えたかったであろうこと：「世界の不条理な現実を前にして、誠実に自分の職務を果たすことで他者への貢献を成し遂げる。」はなむけとして三田西陵高校を巣立ちゆく皆さんにこの言葉を贈ります。



3 年 5 組担任

上野 敏史

家族・友人・先生との関係の中で悩み・怒り・泣き・笑いを繰り返してきたこの 3 年間。

少し目を閉じて考えてみてください。何かにチャレンジした時のこと！何かの壁にぶちあたった時のこと！何かを成功させた時のことを・・・。

そこには必ず君のことを思い、君のことを信頼し、君の為に何かをしてくれた誰かがいたことでしょう。

人は生きていく中で常に人に支えられ、人を信頼することによって一步一步成長していくことができます。新たな世界で新たな仲間と出会ったとき、「自分が仲間に支えられていること・自分が仲間を信頼すること」を忘れないで下さい。

君たちにはこの先、光り輝く未来が待っています。その未来を決して無駄にしないように・・・。

最後、27 回生 3 学年学年主任の鴻谷先生からのメッセージです。

学年主任

鴻谷 文夫

人間万事塞翁が馬

27 回生の皆さん卒業おめでとう。最後に皆さんに送るメッセージです。

「人間万事塞翁が馬」の言葉の由来、意味は知っていますか？由来は次の通りです。

中国の北のほうにお城がありました。

そこに住むおじいさんの馬が、ある日逃げ出してしまったのです。逃げ出したことを知った近所の人々は、おじいさんを慰めました。

しかし、おじいさんは「このことが幸運を呼び込むかもしれないよ」とあまり気に留めていませんでした。しばらく経ってから、なんと逃げた馬が戻ってきました。しかも、たくさんの馬を連れて戻ってきたのです。近所の人々は、喜びましたがおじいさんは「このことが禍になるかもしれないよ」と言うのです。

しばらくすると、おじいさんの息子がその馬から落ちて怪我をしてしまったのです。

近所の人々がお見舞いに行くと老人は「このことが幸運を呼び込むかもしれないよ」と言いました。

やがて戦争が起き、この城も戦争に巻き込まれてしまいました。しかしおじいさんの息子は足を怪我していたので、戦争に行かずに済みました。

由来は以上です。言葉の意味は人生、何が幸福で何が不幸なのかはわからないという意味です。私は、前を向いてチャレンジすることが一番の幸福と考えます。今年 1 年は、皆さんにとっては、進路実現に向けてチャレンジの 1 年でした。満足度はどうですか。

本当に大切なことは、これから先ですよ。

2 月に行われた北京オリンピックでも、今まで誰もチャレンジしなかった技や演技に多くのアスリートたちは挑んでいました。感動しましたし、勇気を貰ったシーンが数々ありました。

27 回生の皆さんの今後の活躍を祈りつつ、応援しています。“チーム 27 回生”の仲間ですからね。

チーム 27 回生
集団の力が個を
伸ばす！

